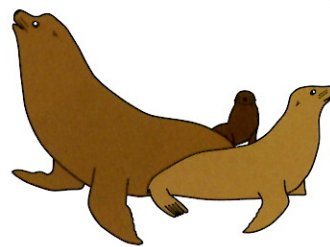


特別講演会

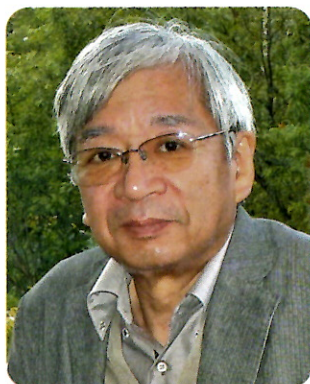
ひげき がいじゅう
悲劇の海獣



ニホンアシカを追って

かつて日本各地にニホンアシカが生息していました。古くは古事記の神話に登場し、今でも山陰地方や出雲大社にその古い呼称が残っています。縄文・弥生遺跡からは骨が出土し、高松藩などでは鉄砲による狩りの記録が残っています。竹島では、江戸時代から狩猟が行われ、明治時代には皮を目的に大量捕獲されました。昭和に入ると生け捕りにされて動物園の人気者になりました。戦後も竹島ではアシカが確認されていましたが、今では姿を見なくなりました。まさに悲劇の海獣と呼ぶにふさわしい動物です。明治時代に日本の動物学は大きな発展をとげましたが、ニホンアシカは研究されることなく姿を消しました。島根大学のはく製標本や竹島の8ミリフィルムの発見をきっかけに、ニホンアシカを追って研究をしてきた井上先生にこの悲劇の海獣についてお話しいたします。

●先生の紹介



いの うえ たか お
井上 貴央 先生（鳥取大学名誉教授）

略歴

1978年鳥取大学医学部医学科卒業。医学博士。同大学助手・講師・助教授を経て、1991年教授に就任し医学部長などを兼任。ヒトを含めた動物の細胞や骨などの形を調べる形態学が専門で、電子顕微鏡によるミクロの研究から目で見るマクロの研究まで幅広く“かたち”の研究を行う。ニホンアシカ剥製標本の国内初の確認や竹島映像フィルムの発見を機会に、ニホンアシカの研究に取り組む。人体骨格のペーパークラフト・ブック『ボニー』、『鳥取発！青谷の遺跡の骨物語』をはじめ、『カラー人体解剖学』、『生命ふしぎ図鑑 脳のしくみ—4億年の歴史を探る—』などの著作がある。

開催日

2024年8月9日（金） 17:00-18:10
（講演50分、質問20分）

会場・共催

公益財団法人 日本国際問題研究所

東京都千代田区霞が関3-8-1 虎ノ門ダイビルイースト3階（領土・主権展示館 同ビル内）

定員

先着30名（事前申込み制・入場無料）

参加申込み方法

参加希望者全員の氏名・電話番号を明記のうえ、

info@mtas.go.jp までメールにより送付。

※zoomによるオンライン参加も可能です。詳細・申込み方法はHPをご覧ください。
<https://www.cas.go.jp/jp/ryodo/tenjikan>



お問い合わせ先

領土・主権展示館 03-6257-3715

[所在地] 東京都千代田区霞が関3-8-1 虎ノ門ダイビルイースト1階

イベントの内容が変更・中止となる場合がございます。お出かけ前にHP等をご確認ください。

表裏のアシカのイラスト：井上貴央鳥取大学名誉教授が作成



領土・主権展示館
NATIONAL MUSEUM OF
TERRITORY AND SOVEREIGNTY